

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

令和4年9月15日（木）

【報告事項】

1 逮捕監禁等事件被疑者の再逮捕について

（刑事部）

警察本部から「久留米警察署及び捜査第一課は、平成29年10月6日、被害者方において、被害者の両手首や両足首を結束バンドで縛るなどして無理やり車両に乗車させ、同月8日までの間、監視下において監禁するなどした逮捕監禁等事件について、福岡市居住のNPO法人理事長の男性を再逮捕した。被疑者は、別の被害児童に対する逮捕監禁等事件について、7月20日に通常逮捕していた者であり、今後とも各種捜査を推進し、全容解明に努めていく。」旨の報告があった。

公安委員から「被害児童の保護者は、子育てに悩んで被疑者に療育を依頼したとのことであるが、なぜ、ほかの相談窓口ではなく、被疑者に療育を依頼したのか。」旨の発言があり、警察本部から「本件の保護者は、子育てに悩む保護者が参加するセミナーで被疑者の活動を知り、療育を依頼している。」旨の説明があった。

公安委員から「被疑者の活動が保護者から一定の評価を得ていた側面もあると思うが、日常的にこのような事を行っていたのか。」旨の発言があり、警察本部から「子育てに悩む保護者の心情につけ込んだ卑劣な犯行であり、今後の捜査で全容を明らかにする。」旨の説明があった。

公安委員から「被疑者に異名があるのはなぜか。」旨の発言があり、警察本部から「戸籍上の理由からである。」旨の説明があった。

公安委員から「被疑者の活動が療育といえるかどうかについて、専門家の意見は聴取しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「捜査の過程で、専門家の意見を聴取している。」旨の説明があった。

公安委員から「いずれにしても子供の人権が侵害されていることから、各種捜査を徹底し、全容解明をお願いする。」旨の発言があった。

2 大麻営利目的栽培等事件の捜査終結について

（暴力団対策部）

警察本部から「早良警察署ほか2警察署及び薬物銃器対策課並びに門司税関及び九州厚生局麻薬取締部は、6月29日、インド共和国から、木製家具内に隠匿した大麻を含有する固形物約4,800グラムを輸入した大麻営利目的輸入事件について、8月25日、道仁会傘下組織組員ほか2人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「大麻と覚醒剤では薬理作用が異なるのか。」旨の発言があり、警察本部から「大麻よりも覚醒剤のほうが幻覚等の作用が強く、そのため価格も高い。大麻使用による検挙者は若者の割合が多く、若者が大麻による健康被害を軽視しているような状況も見受けられることから、しっかりと広報啓発を行っていく。」旨の説明があった。

3 秋の交通安全県民運動の実施に伴う警察活動の強化について

（交通部）

警察本部から「9月21日から9月30日までの10日間、全国一斉の交通安全運動を機に警察活動を強化し、県民の交通安全意識の更なる高揚を図る。運動の重点は、子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保、夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止、自転車の交通ルール遵守の徹底、飲酒運転の撲滅であり、期間中は、通学路等における取

締り及び関係機関・団体等と連携した保護誘導活動、歩行者に対する反射材等の着用促進、自転車運転者に対する交通指導取締り及び交通安全教育、発生実態の分析に基づく実効ある飲酒運転取締り等に取り組む。」旨の報告があった。

公安委員から「交通事故死ゼロを目指す日は、毎回設定されているのか。」旨の発言があり、警察本部から「交通事故死ゼロを目指す日は、平成20年から全国统一で毎回設定されている。」旨の説明があった。

公安委員から「本運動期間中の交通事故死ゼロを目標に各種取組を推進してもらいたい。」旨の発言があった。

4 当面の警備情勢に伴う警察措置について

(警備部)

警察本部から「中国批判に取り組んでいる団体は、昭和47年9月29日、日中共同声明に調印して国交が樹立した、この9月29日を捉えて、「反中共デー」として中国との国交断絶を訴える活動に取り組んでいる。本年も、同団体による中国総領事館を中心とした福岡市内での車両街宣を予定していることから、所要の体制により警戒警備を実施する。」旨の報告があった。

公安委員から「車両街宣による騒音や交通妨害が発生するおそれがあるのか。県民の生活に支障が出ないよう警戒警備に万全を期してもらいたい。」旨の発言があり、警察本部から「過去にも騒音による110番通報等がなされていることから、不法事案に対しては各種法令に基づき厳正に対処する。」旨の説明があった。

